

ごみ減量・リサイクルに関するアンケート調査 結果報告書

環境部 環境総務課
平成 28 年 10 月作成

◆ 調査目的

寝屋川市では、平成 23 年 3 月に一般廃棄物処理基本計画（平成 23 年度から平成 32 年度の 10 年間計画（以下「計画」といいます。））を策定し、ごみ減量化・再資源化の目標値を定めて様々な取組を行っていますが、下表の通り、計画の中間目標年度である平成 27 年度のごみ排出量実績値は 75,927 トンで、目標値 72,401 トンと比較して、3,526 トン超過し、平成 27 年度の焼却処理量実績値は、58,340 トンで、目標値 52,934 トンと比較して、5,406 トン超過している状況です。また、平成 30 年 4 月から稼働予定の新ごみ処理施設の処理能力は、計画の平成 29 年度焼却処理見込み量 50,313 トンから 1 日当たり 200 トンとして設計しており、平成 27 年度の焼却処理実績 58,340 トンと比較して約 8,000 トン超過している状況です。

そこで、市民の皆様が現状のごみ処理行政について、どのような認識をされているのかを把握し、更なる効率的・効果的なごみ処理やごみ減量施策を進める上で、参考とするために市民アンケート調査を実施しました。

	人口	ごみ総排出量		焼却処理量
			うち集団回収	
H27 年度計画値	228,559 人	72,401 トン	9,913 トン	52,934 トン
H27 年度実績値	239,594 人	75,927 トン	6,723 トン	58,340 トン
実績－計画	11,035 人	3,526 トン	－3,190 トン	5,406 トン

◆ 調査対象と抽出方法

18 歳以上の寝屋川市民を対象に、住民基本台帳から市内 24 小学校区ごとに、年代、性別の構成比に応じて、偏りがないよう設定し、各 100 人の市民（計 2,400 人）をコンピューターにより無作為抽出し、アンケート調査表を郵送しました。

年代	男性	構成比	女性	構成比	合計	構成比
10 代	26	1.08%	25	1.04%	51	2.1%
20 代	126	5.25%	125	5.21%	251	10.5%
30 代	168	7.00%	168	7.00%	336	14.0%
40 代	236	9.83%	232	9.67%	468	19.5%
50 代	162	6.75%	165	6.88%	327	13.6%
60 代	203	8.46%	233	9.71%	436	18.2%
70 代	172	7.17%	208	8.67%	380	15.8%
80 代	51	2.13%	81	3.38%	132	5.5%
90 代以上	0	0.00%	19	0.79%	19	0.8%
計	1,144	47.7%	1,256	52.3%	2,400	100%

◆ 回答方法

無記名による調査で、設問に対して該当項目に○を付記する選択方式と意見などを自由に記入する記述方式により行いました。また、回答は、返信用封筒を同封し、郵便により回収しました。

◆ 調査期間

平成 28 年 7 月 29 日付けでアンケート用紙（別紙）を郵送し、平成 28 年 8 月 20 日までの回答期限としました。

※調査期間を過ぎてから届いた調査票についても、集計（平成 28 年 9 月 7 日時点）を行っています。

◆ 回答状況

発送数	有効発送数	回答数	回答率
2,400 人	2,391 人	861 人	36.0%

※発送数と有効発送数の差 9 人は、転居等により「あて所に尋ねあたらない」と返送されたもの

本アンケート調査は、信頼度95%、標本誤差が±5%以内となるように設定し、発送数を2,400人として実施しました。

調査の結果、861人からアンケートを回収し、標本誤差は、±3.4%となり、設定どおりの結果を得ました。

$$b = \pm 2 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

b = 標本誤差

N = 母集団数 （18歳以上の総人口 H28.7.1）、201,624人

n = 回答数 861人

p = 回答比率 50%とする（二者択一の設問の場合が最大となる）

◆ 本報告書の見方

- 1 各設問の選択肢についてはグラフや表に収めるため、意味を損なわない程度に簡略化しています。
- 2 構成比（割合）については小数点第2位を四捨五入しているため合計値が100%にならない場合があります。また、複数回答の場合、各選択項目の回答者数を表示しているため、回答者数の合計が861人を超えます。
- 3 記述欄（選択肢「その他」の回答内容、意見・提案など）への回答内容は、趣旨を損なわない範囲で一部文言の整理を行っています。

◆ アンケート結果

I 回答者の状況

アンケートは、2,400人に送付し、861人（36.0%）から回答があり、集計を行いました。回答者については、下記のとおり、性別（問1）、年代（問2）、小学校区（問3）の3項目を設問としました。

(1) 男女別（問1）

男女別については、男性への発送数は1,144人に対し、回答は255人（回答率22.3%）から、女性への発送数は1,256人に対し、回答は593人（回答率47.2%）から得られ、回答者861人の構成割合は男性29.6%、女性68.9%となりました。

(2) 年齢層別（問2）

年齢層別では、40代以下で発送数1,106人に対し、回答は283人（回答率25.6%）から、50代以上の年齢層の発送数1,294人に対し、回答は569人（回答率44.0%）となりました。

(3) 校区別（問3）

全体の回答者数は861人で、校区ごとの回答者数は、21人から47人となっており、極端な地域的偏りは見られませんでした。

(1)、(2)、(3)のことから、ごみ減量・リサイクルへの関心について、家庭から発生するごみの分別や処理等について、日常生活において、男性よりも女性の

関心が高く、また、50 代以上の市民の方々に比べ、40 代以下の関心が低くなっているため、ごみ減量やリサイクルについて、性別や年齢層に応じて、提供する情報や啓発内容を工夫して実施していく必要があります。

II 回答結果の状況

アンケートの設問は、ごみ減量やリサイクルに関する 15 項目とし、そのうち選択項目による回答は 14 項目（問 4 から問 17）で、記述による回答として自由意見（問 18）を受けました。今回実施したアンケートは 36.0%の回収率となったこと、全設問における無回答の割合が低かったことから集計結果の信頼性は高いものと判断しています。

(1) ごみ減量やリサイクルについての関心（問 4、問 5）

本市が収集した家庭から排出されるごみ（家庭ごみ）は、省資源や分別・リサイクル意識の高まりから平成 21 年度の年間 52,383 トンから、平成 27 年度に 50,036 トンと 4.5%減少しており、下表のとおり「関心がある」「どちらかと言えば関心がある」を合わせて 87.8%と多くを占め、ごみ減量意識は、多くの市民に浸透していることが伺えます。

問 4 選択項目	回答者数	割合
関心がある	340 人	39.5%
どちらかと言えば関心がある	416 人	48.3%
どちらかと言えば関心がない	73 人	8.5%
関心がない	11 人	1.3%

} 87.8%

(P12 から抜粋)

また、「どちらかと言えば関心がない」「関心がない」を選択された主な理由としては下表のとおり「実感ができない」や「情報が少ない」との結果となっています。

問 5 選択項目	回答者数	割合
ごみを減らす効果を実感できない	29 人	34.5%
ごみを減らす方法の情報が少ない	21 人	25.0%
ごみを減らしたりリサイクルに手間がかかる	18 人	21.4%
ごみを減らさなくても生活に影響がない	5 人	6.0%

(P13 から抜粋)

(2) ごみ減量等、日ごろから心がけていること（問6）

日ごろから心がけている主な項目は、下表のとおり、多くの方が、日常生活のなかで、ごみ減量に配慮した行動をとっています。

問6 選択項目	(複数回答)	回答者数	割合
資源とごみは分別している		712 人	21.8%
詰め替え商品を選んで買っている		629 人	19.2%
生ごみは「水切り」して出している		556 人	17.0%
資源集団回収に出している		498 人	15.2%
マイバッグを持参し、レジ袋や過剰包装を断っている		484 人	14.8%

(P14 から抜粋)

問4及び問6での回答では、ごみ減量やリサイクルの意識が高いにも関わらず、平成28年度に実施したごみ質分析調査では、家庭ごみの可燃ごみと廃プラ・ペットボトルの中に、わかりやすく簡単に分別できるアルミ缶・スチール缶がわずかながら混入されている結果となっています。

(3) 市に特に必要な取組み（問7）

ごみ減量・リサイクルを推進するために市として必要な主な取組については、下表のとおり、啓発や情報提供の充実と資源ごみを排出する物理的な利便性の向上が必要とされています。

問7 選択項目	(複数回答)	回答者数	割合
ごみの減量・リサイクルの情報提供の充実		457 人	26.2%
ごみ分別についてもっと市民に周知する		365 人	20.9%
古紙などをいつでも出せる場所を提供する		302 人	17.3%
ごみ問題を学習できる機会を増やす		195 人	11.2%

(P15 から抜粋)

(4) ごみの分け方や出し方（問8）

ごみの分別等の確認で、主に利用されているものについては、次表のとおり、63.3%の方が、ごみ出しの際にクリーンカレンダーを利用しています。

問 8 選択項目	(複数回答)	回答者数	割合
クリーンカレンダー		607 人	63.3%
ごみの分け方・出し方パンフレット		252 人	26.3%
クリーンセンターに電話で聞く		45 人	4.7%
市ホームページ		21 人	2.2%

(P16 から抜粋)

(5) 可燃ごみに間違っていて入れていたもの(問9)

可燃ごみに間違っていて入れていたものについては、下表のとおり、古紙として分別すべきものが 33.9%を占めています。

また、ごみ質分析調査においても、家庭から排出される可燃ごみ全体の重量のうち、紙類の占める割合が、平成 21 年度は 34.6%、平成 28 年度は 33.9%となっており、そのうち、リサイクル可能な紙類は、それぞれ 15.1%、16.1%と改善されていません。

問 9 選択項目	(複数回答)	回答者数	割合
お菓子やボックスティッシュなどの紙箱		370 人	24.8%
包装紙、折込広告、段ボールなどの紙		136 人	9.1%
アルミ箔		362 人	24.3%
古着		112 人	7.5%

} 33.9%

(P17 から抜粋)

(6) 現状の収集体制(問 10)

週 5 日における収集体制については、下表のとおり分別区分すべてにおいて現状のままでよいが 50%以上を占めています。

問 10 選択項目	現状のまま	割合
可燃ごみ (現 週 2 回)	703 人	81.6%
古紙・古着 (現 週 1 回)	687 人	79.8%
廃プラ・ペット (現 週 1 回)	472 人	54.8%
缶・びん (現 第 2・4 水曜)	647 人	75.1%
不燃ごみ (現 第 1・3・5 水曜)	670 人	77.8%

(P18 から抜粋)

(7) 生ごみの水切り(問 11、問 12)

生ごみの『水切り』については、下表のとおり「現在取り組んでいる」が

80.6%を占めており、ごみ減量の啓発において重点的に行っている「生ごみのもうひと絞り運動」が浸透していることが伺えます。

しかし、ごみ質分析調査の結果では、家庭から排出される可燃ごみ全体の重量のうち、生ごみ（厨芥類）の占める割合が、平成21年度は38.6%、平成28年度は41.3%と増加していることから、生ごみの『水切り』の効果が十分に表れていない結果となっています。

問 11 選択項目	回答者数	割合
取り組んでいる	694 人	80.6%
取り組んでいない	131 人	15.2%

（P19 から抜粋）

また、「取り組んでいない」を選択された主な理由としては、下表のとおり「知らなかった」や「手間がかかる」となっています。

問 12 選択項目	回答者数	割合
水切りの必要性を知らなかった	48 人	36.6%
手間がかかる	37 人	28.2%
生ごみを触りたくない	20 人	15.3%

（P20 から抜粋）

（8）生ごみの堆肥化（問 13、問 14）

生ごみの『堆肥化』については、下表のとおり「現在取り組んでいる」が6.7%と少数となっています。

問 13 選択項目	回答者数	割合
取り組んでいる	58 人	6.7%
取り組んでいない	774 人	89.9%

（P21 から抜粋）

また、「取り組んでいない」主な理由としては、下表のとおり、「堆肥を必要としない」「置く場所が無い」となっています。

問 14 選択項目	回答者数	割合
（複数回答）		
堆肥を必要としない	263 人	28.2%
置く場所がない	259 人	27.8%
コンボ [®] ストや処理機の購入に費用がいる	190 人	20.4%

（P24 から抜粋）

(9) 廃プラの再商品化（問 15）

廃プラの再商品化については、下表のとおり「資源の再利用」や「CO₂ 排出抑制」の合計で 74.4%となっています。

一方で、「処理に費用がかかりすぎ」「再利用しても、結局は焼却」などの合計で 22.5%となっています。

問 15 選択項目	(複数回答)	回答者数	割合	
限りある資源の再利用に役立つ		626 人	44.7%	74.4%
CO ₂ 排出抑制で地球温暖化対策に役立つ		416 人	29.7%	
処理に費用がかかりすぎている		152 人	10.8%	22.5%
再利用しても、結局は焼却している		88 人	6.3%	
分別に手間がかかる		49 人	3.5%	
複合素材は再利用しても商品の品質が劣る		27 人	1.9%	

(P23 から抜粋)

(10) 廃プラのサーマルリサイクル（問 16）

廃プラのサーマルリサイクルについては、下表のとおり、「手間が無くなる」「ごみ発電量の増加に役立つ」「処理費用が安くなる」の合計で 59.3%となっています。

一方で、「CO₂ 排出量増加」「循環型社会に逆行」などの合計で 36.4%となっています。

問 16 選択項目	(複数回答)	回答者数	割合	
分別する手間が無くなる		370 人	28.2%	59.3%
ごみ発電量の増加に役立つ		243 人	18.5%	
処理費用が安くなる		166 人	12.6%	
CO ₂ の排出量が増加する		225 人	17.1%	36.4%
循環型社会の推進に逆行する		177 人	13.5%	
焼却炉温度が上昇し、施設に負担をかける		76 人	5.8%	

(P24 から抜粋)

(11) 廃プラの処理方法（問 17）

廃プラの処理方法については、次表のとおり、「再商品化しやすいものは再商品化して、その他廃プラは、焼却する」が 63.3%、となっています。

問 17 選択項目	回答者数	割合
再商品化しやすいものは再商品化し、その他廃プラは焼却する	545 人	63.3%
これまでと同じように全て再商品化する	147 人	17.1%
全て焼却（サーマルリサイクル）する	58 人	6.7%

（P25 から抜粋）

(12) 自由意見（問 18）

『ごみ減量・リサイクルなどごみ処理事業について』自由意見を求めたところ、861 人中 245 名の方から多くの要望や意見がありました。特に、「ごみ分別等リサイクル」、「廃プラ処理」、「ごみ減量等の取り組み意識」、「ごみ収集」についての要望や意見が多く見られました。

また、アンケートが届かなかった方からも意見を募集したところ、13 人の方からご意見をいただき、「廃プラ処理方法や分別方法」などに対する要望や意見がありました。その他に、建設工事に関する意見もありました。

◆ アンケート結果の総括・活用

「調査目的」で記載している計画に基づき、平成 32 年度を目標年度として様々なごみ減量・リサイクル施策を実施してきましたが、中間年度の平成 27 年度の実績においては、ごみ総排出量の目標を大きく超過しているのが現状です。

今回のアンケート結果から、性別や年代層によるごみ減量やリサイクルについての意識に差があることや、ごみ減量してもその効果を実感できない等の声があることから、情報提供や啓発の内容等を工夫した取り組みを実施していきます。

また、ごみの分別においては、可燃ごみの中には、リサイクル可能な紙類や不燃ごみとして分別すべき「アルミ箔やアルミカップ」を可燃ごみに入れていた市民が多く、アルミ箔を可燃ごみと一緒に焼却炉内（約 900～950℃）に投入すると、約 660℃で溶け出し、炉内で張り付き、焼却炉に悪影響を与えることから、ごみ焼却施設の安定的な稼働や維持管理経費の削減のためにも分別の徹底をさらに周知・啓発していくことが重要となっています。

生ごみの「水切り」は、日常生活において小さな取り組みで大きな減量効果が期待でき、多くの市民が取り組んでいるにも関わらず、ごみ質分析調査結果から平

成 21 年度と 28 年度の比較において、減量が進んでいないことから、効果的な「水切り」についての啓発方法の検討等を行う必要があります。

さらに、平成 30 年度から稼働する新ごみ焼却施設は年間焼却処理量約 50,000 トンから算出した処理能力であるため平成 27 年度の焼却処理実績値と比較すると約 8,000 トン超過しており、このまま推移すると、新焼却炉の能力を超え、今後のごみ処理に影響が出ることも考えられます。

また、ごみの処理については、多額の経費を要しており、今以上の経費増とならないよう、ごみ減量は必須であることを理解していただき、市民一人ひとりをはじめ学校や地域活動と行政が一体となったごみ減量・リサイクルの取組みを実践し、引き続き、衛生的で快適なまちづくりを推進できるよう、アンケート結果から得られた集計結果やご意見を参考に、今後のごみ処理事業の施策を検討・実施していきます。

◆ アンケート集計表

I お答え頂く方のことを教えてください

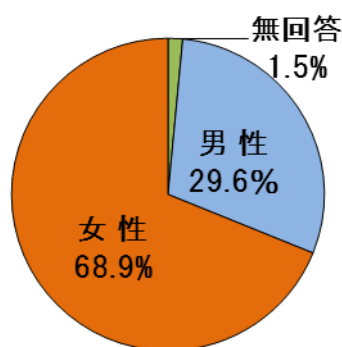
◆ 問1 あなたの性別？

選択項目	回答数	構成比
1. 男	255	29.6%
2. 女	593	68.9%
3. 無回答	13	1.5%
計	861	100.0%

◆ 問2 あなたの年代？

選択項目	回答数	構成比
1. 10代	4	0.5%
2. 20代	52	6.0%
3. 30代	81	9.4%
4. 40代	146	17.0%
5. 50代	119	13.8%
6. 60代	213	24.7%
7. 70代	178	20.7%
8. 80代	57	6.6%
9. 90代以上	2	0.2%
10. 無回答	9	1.0%
計	861	100.0%

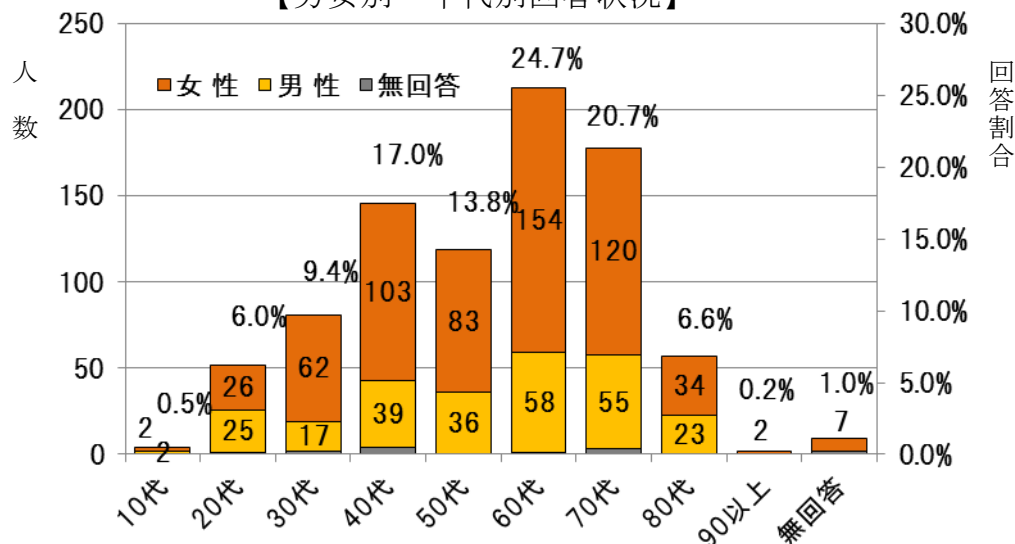
【男女別回答状況】



◆ 問3 あなたのお住まいの小学校区？

選択項目	回答数	構成比
1. 東小学校区	36	4.2%
2. 中央小学校区	34	3.9%
3. 池田小学校区	38	4.4%
4. 桜小学校区	26	3.0%
5. 北小学校区	44	5.1%
6. 田井小学校区	33	3.8%
7. 明和小学校区	35	4.1%
8. 梅が丘小学校区	40	4.6%
9. 神田小学校区	35	4.1%
10. 和光小学校区	21	2.4%
11. 第五小学校区	46	5.3%
12. 国松緑丘小学校区	37	4.3%
13. 南小学校区	30	3.5%
14. 堀溝小学校区	47	5.5%
15. 西小学校区	32	3.7%
16. 点野小学校区	42	4.9%
17. 成美小学校区	31	3.6%
18. 啓明小学校区	35	4.1%
19. 三井小学校区	41	4.8%
20. 宇谷小学校区	38	4.4%
21. 木屋小学校区	34	3.9%
22. 石津小学校区	36	4.2%
23. 木田小学校区	32	3.7%
24. 楠根小学校	28	3.3%
25. 無回答	10	1.2%
計	861	100.0%

【男女別・年代別回答状況】

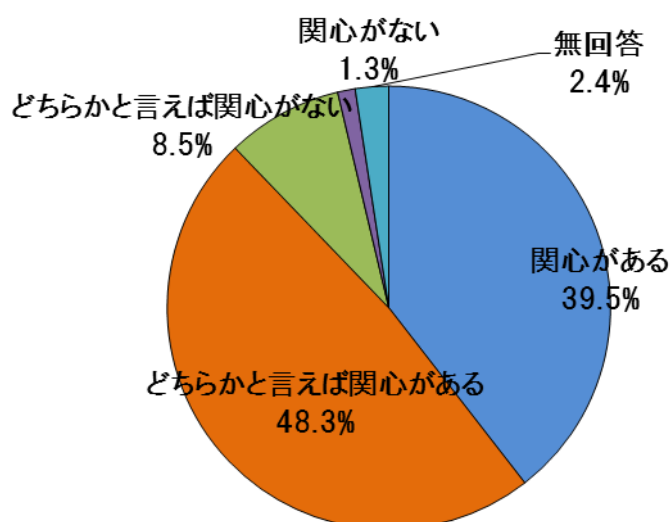


Ⅱ ごみ減量・リサイクルの関心や取組みについて

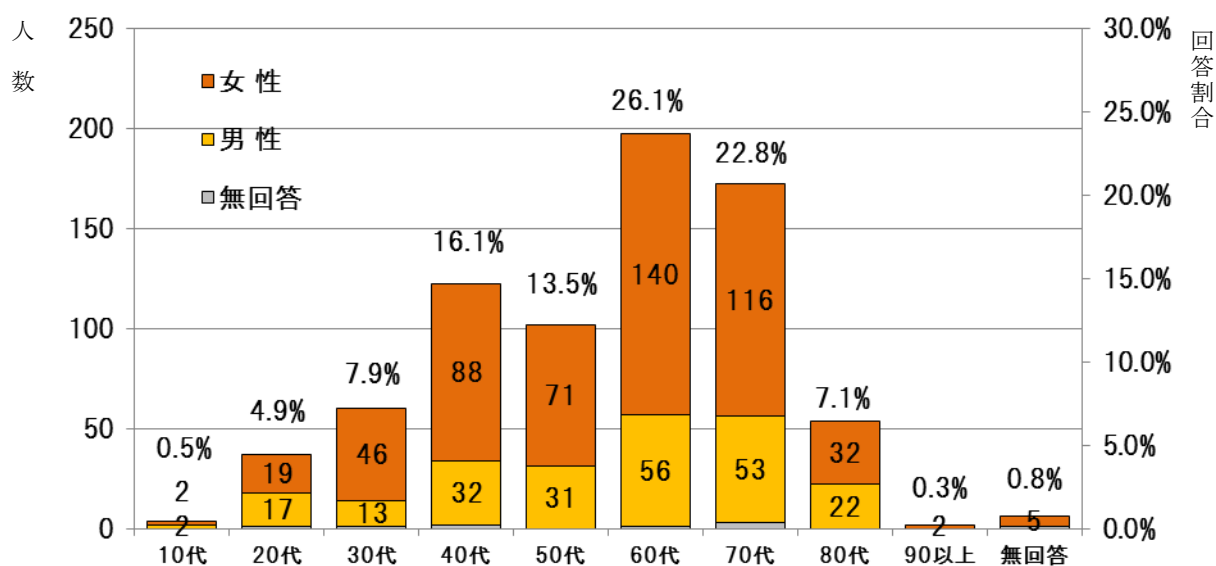
◆問4 ごみ減量やリサイクルについて関心がありますか？

選択項目	回答数				構成比
	男性	女性	無回答	計	
1. 関心がある	104	232	4	340	39.5%
2. どちらかと言えば関心がある	122	289	5	416	48.3%
3. どちらかと言えば関心がない	25	47	1	73	8.5%
4. 関心がない	2	7	2	11	1.3%
5. 無回答	2	18	1	21	2.4%
計	255	593	13	861	100.0%

【項目別回答状況】



【関心がある又は少し関心がある男女別・年代別状況】



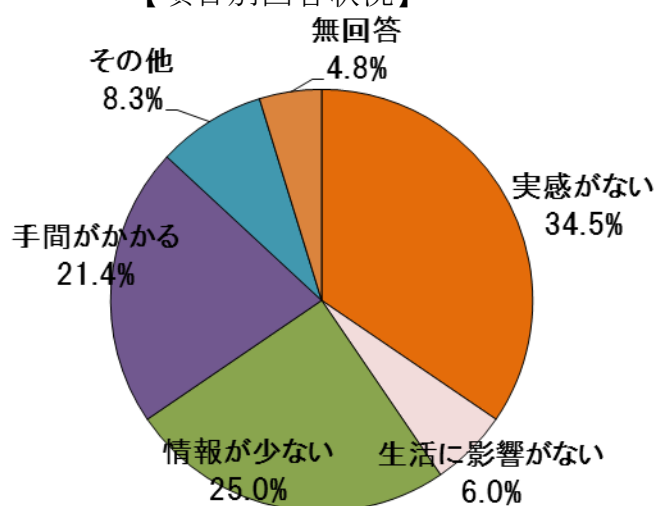
◆問5 問4で「どちらかといえば関心がない」又は「関心がない」と答えた方にお聞きします。「関心がない」理由は？

選択項目	回答数				構成比
	男性	女性	無回答	計	
1. ごみを減らす効果を実感できない	8	21		29	34.5%
2. ごみを減らさなくても生活に影響ない	3	2		5	6.0%
3. ごみを減らす方法の情報が少ない	10	11		21	25.0%
4. ごみを減らしたりリサイクルに手間がかかる	4	11	3	18	21.4%
5. その他	1	6		7	8.3%
6. 無回答	1	3		4	4.8%
計	27	54	3	84	100.0%

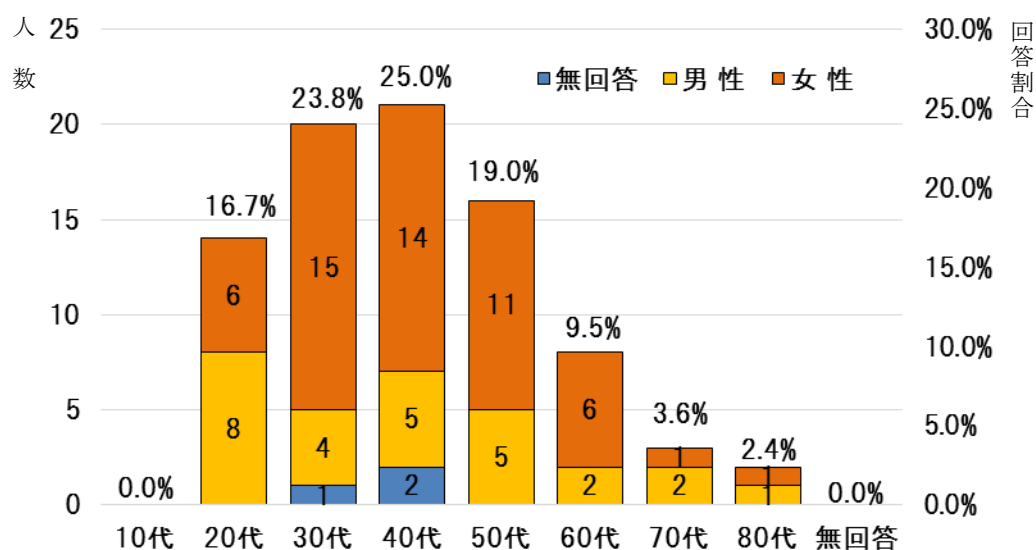
《その他》

- ・ごみはでるものだから、減らそうという気持ちにならない。
- ・全ての物が簡易パックになればごみも減るが企業自体が考えなくては。
- ・ごみが出るとわかっていても、買いたい物は買いたいから。

【項目別回答状況】



【あまり関心がない又は関心がない男女別・年代別回答状況】



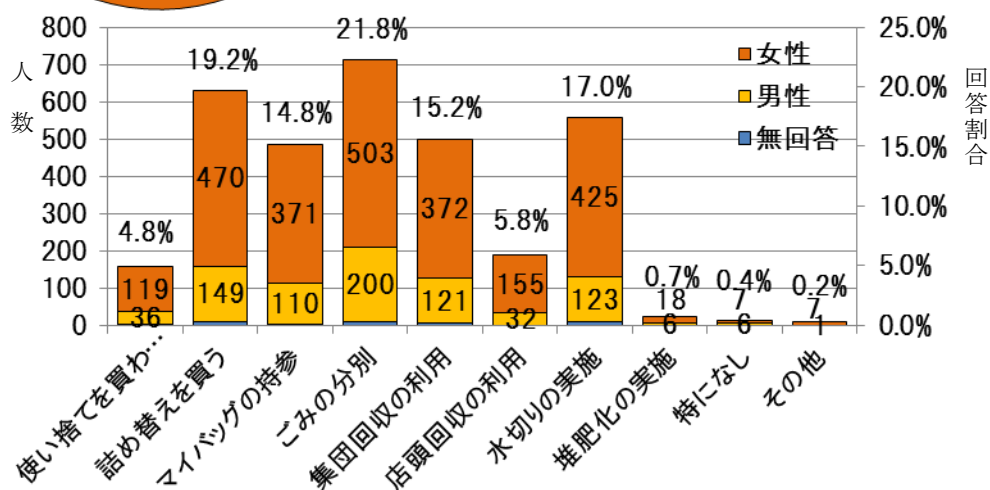
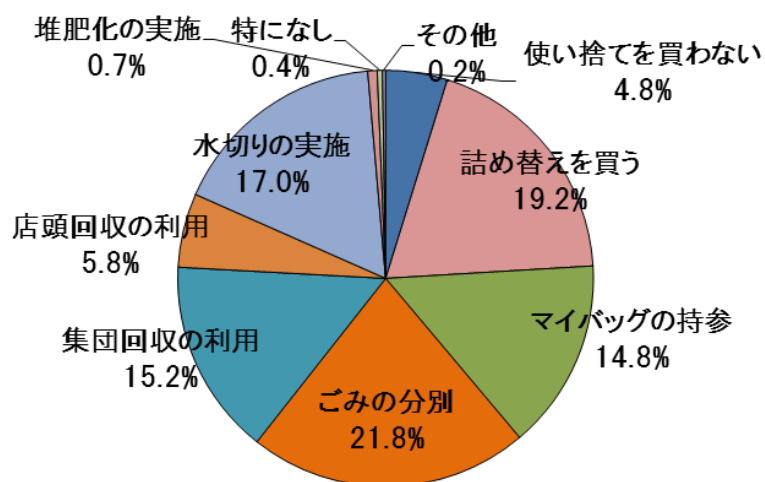
◆問6 あなたは、日頃から心がけていることがありますか？（複数回答）

選択項目	回答数				構成比
	男性	女性	無回答	計	
1. 使い捨て商品になるべく買わない	36	119	2	157	4.8%
2. 詰め替え商品を選んで買っている	149	470	10	629	19.2%
3. マイバッグを持参し、レジ袋を断っている	110	371	3	484	14.8%
4. 資源とごみは分別している	200	503	9	712	21.8%
5. 資源集団回収に出している	121	372	5	498	15.2%
6. 白色トレイなど店頭回収に出している	32	155	1	188	5.8%
7. 生ごみは「水切り」して出している	123	425	8	556	17.0%
8. 生ごみは「堆肥化」している	6	18	0	24	0.7%
9. 特に何もしていない	6	7	0	13	0.4%
10. その他	1	7	0	8	0.2%
計	784	2,447	38	3,269	100.0%

《その他》

- ・ペットボトルは、上蓋、ラベルすべて分解している。
- ・集団住宅の付属のディスプレイで処理している。
- ・ビニール袋は再利用している。

【項目別回答状況】



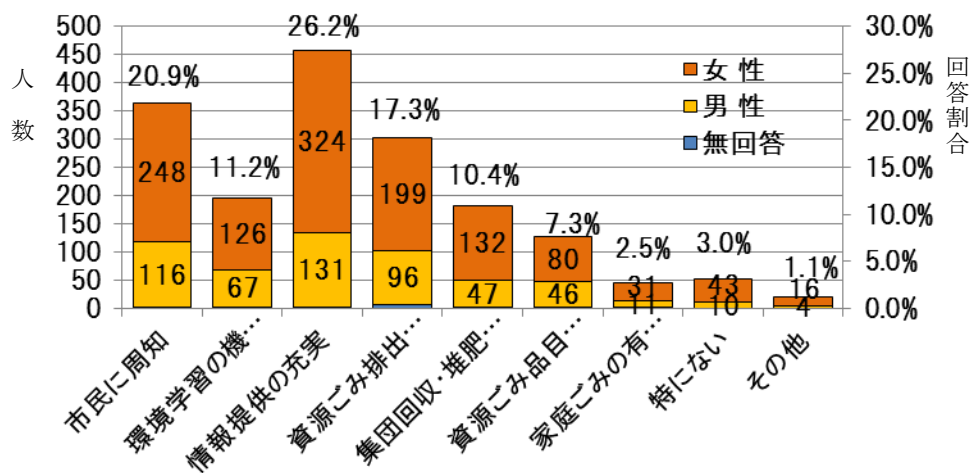
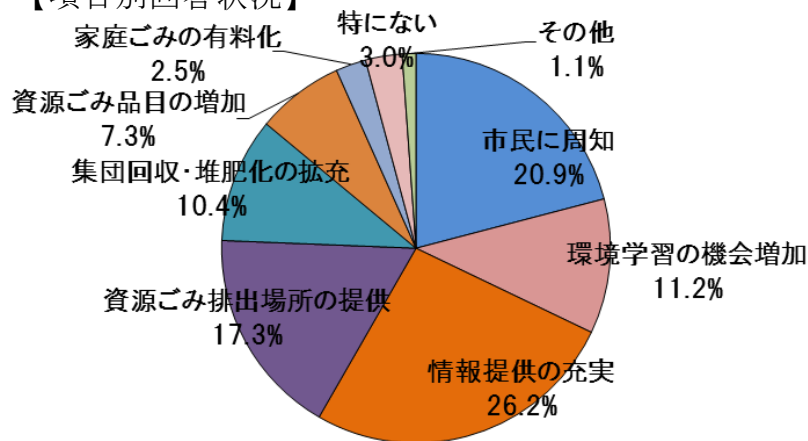
◆問7 ごみの減量やリサイクルを推進するために寝屋川市に特に必要な取り組みは何だと思いますか？（複数回答）

選択項目	回答数				構成比
	男性	女性	無回答	計	
1. ごみの分別についてもっと市民に周知する	116	248	1	365	20.9%
2. ごみの問題を学習できる機会を増やす	67	126	2	195	11.2%
3. ごみの減量・リサイクルの情報提供を充実	131	324	2	457	26.2%
4. 古紙などをいつでも出せる場所を提供する	96	199	7	302	17.3%
5. 集団回収の強化と生ごみ堆肥化を推進	47	132	2	181	10.4%
6. 分別収集する資源ごみの品目を増やす	46	80	1	127	7.3%
7. 家庭ごみ収集の有料化	11	31	2	44	2.5%
8. 特にない	10	43	0	53	3.0%
9. その他	4	16	0	20	1.1%
計	528	1,199	17	1,744	100.0%

《その他》

- ・プラキャップ、缶のプルタブの回収場所を増やしてほしい。
- ・分別方法や収集方法をもう一度見直しても良いのではと思います。
- ・蛍光灯等は特別な場所に行かなくても、いつもの場所をお願いします。
- ・プラごみの回収を週1回から1.5回に増やしてほしい。
- ・ごみの減量することでお得なことがあればいいなと思いました。

【項目別回答状況】



◆問8 ごみの分け方や出し方は、わからないときに主に何をしていますか？

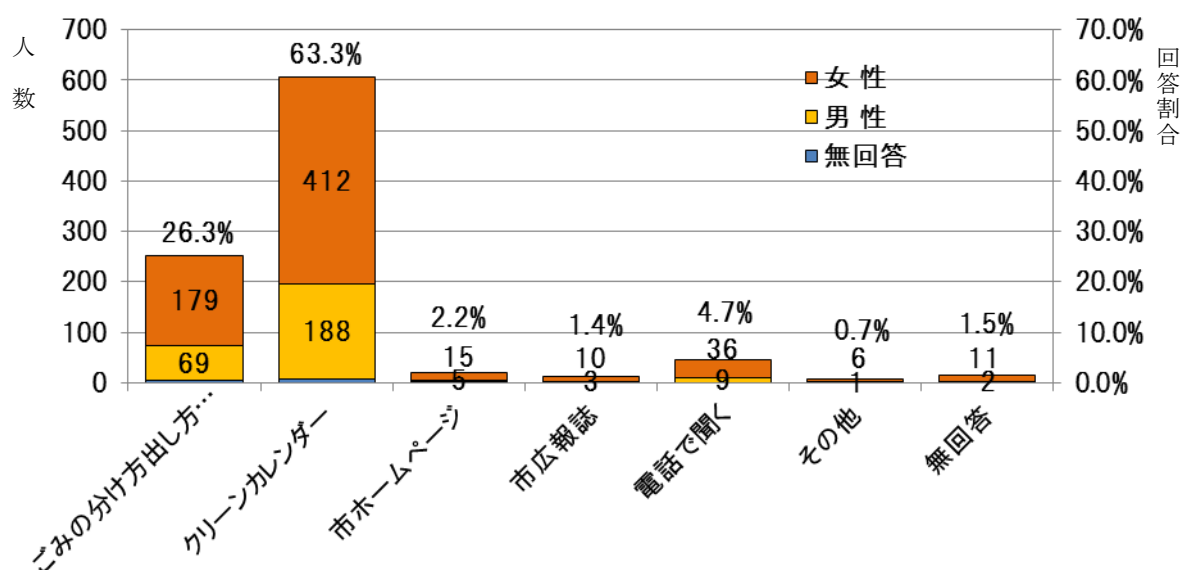
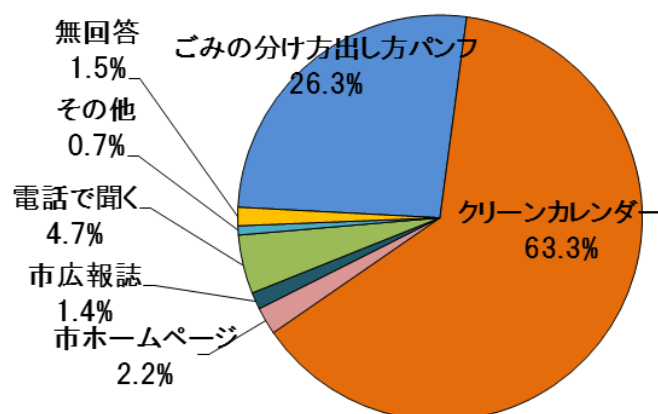
選択項目	回答数				構成比
	男性	女性	無回答	計	
1. ごみの分け方・出し方パンフレット	69	179	4	252	26.3%
2. クリーンカレンダー	188	412	7	607	63.3%
3. 市ホームページ	5	15	1	21	2.2%
4. 市広報誌	3	10		13	1.4%
5. 市（クリーンセンター）に電話で聞く	9	36		45	4.7%
6. その他	1	6		7	0.7%
7. 無回答	2	11	1	14	1.5%
計	277	669	13	959	100.0%

※設問は単一回答としていたが多数の複数回答があったため、複数回答を含んだ数値で集計しています。

《その他》

- ・知人に聞く。
- ・子どもに聞く。
- ・主人が担当しているので私は知りません。

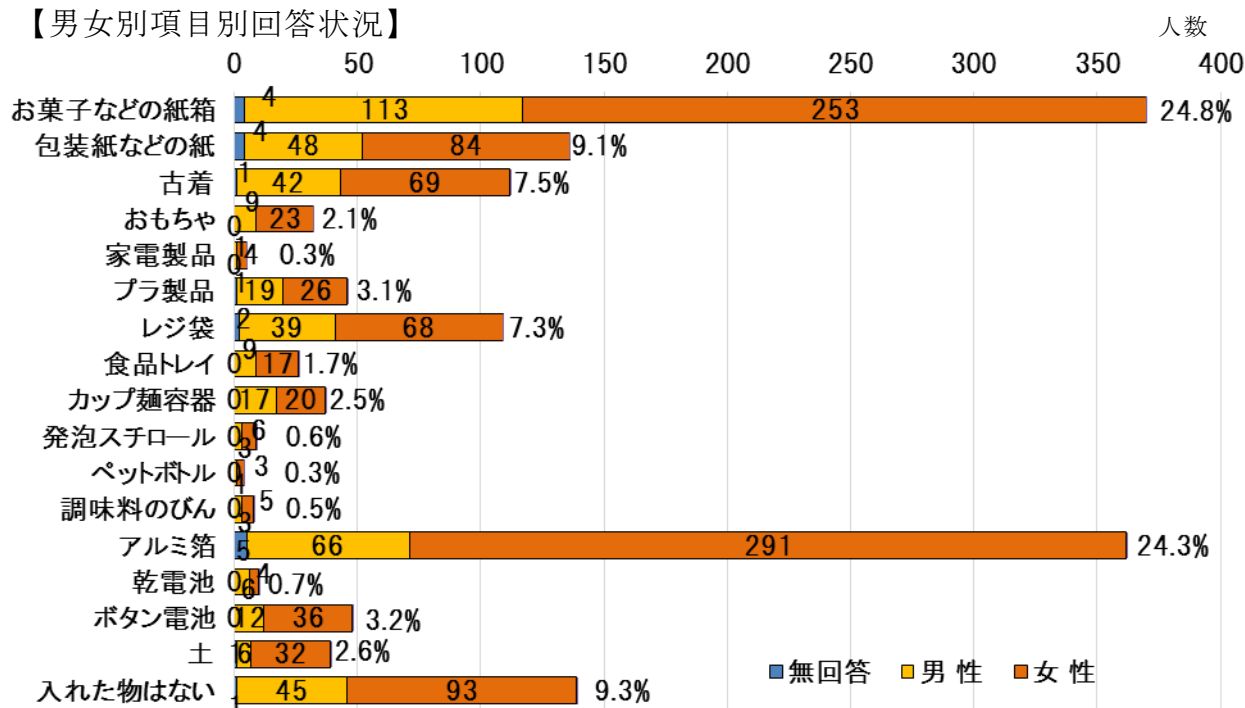
【項目別回答状況】



◆問9 可燃ごみの中には、古紙などの資源ごみや不燃ごみが多く含まれています。あなたが、可燃ごみに間違っ入れていたものは何ですか？（複数回答）

選択項目	回答数				構成比
	男性	女性	無回答	計	
1. お菓子やボックスティッシュなどの紙箱	113	253	4	370	24.8%
2. 包装紙、折込広告・段ボールなどの紙	48	84	4	136	9.1%
3. 古着	42	69	1	112	7.5%
4. おもちゃ	9	23	0	32	2.1%
5. 小さな家電製品	1	4	0	5	0.3%
6. プラスチック製品（ハンガーなど）	19	26	1	46	3.1%
7. レジ袋	39	68	2	109	7.3%
8. 食品トレイ	9	17	0	26	1.7%
9. カップ麺などの容器	17	20	0	37	2.5%
10. 発泡スチロール	3	6	0	9	0.6%
11. ペットボトル	1	3	0	4	0.3%
12. 小さな調味料のびん	3	5	0	8	0.5%
13. アルミ箔	66	291	5	362	24.3%
14. 乾電池	6	4	0	10	0.7%
15. ボタン電池	12	36	0	48	3.2%
16. プランターで使った土	6	32	1	39	2.6%
17. 間違っ入れた物はない	45	93	1	139	9.3%
計	439	1,034	19	1,492	100.0%

【男女別項目別回答状況】

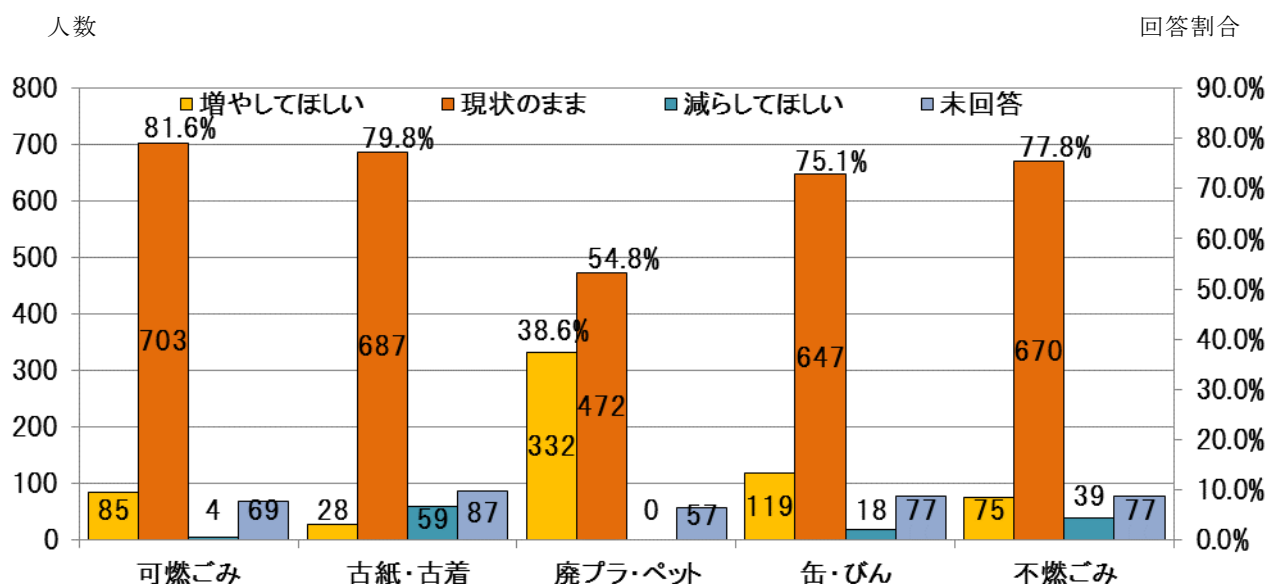


Ⅲ 現在の収集体制はどうですか

◆問 10 あなたは現在の収集回数についてどのように思いますか？

選択項目	増やしてほしい	現状のままでよい	減らしてほしい	無回答
可燃ごみ (現 週 2 回)	85	703	4	69
古紙・古着 (現 週 1 回)	28	687	59	87
廃プラ・ペットボトル (現 週 1 回)	332	472	0	57
缶・びん (現 第 2・4 水曜)	119	647	18	77
不燃ごみ (現 第 1・3・5 水曜)	75	670	39	77

【項目別回答状況】

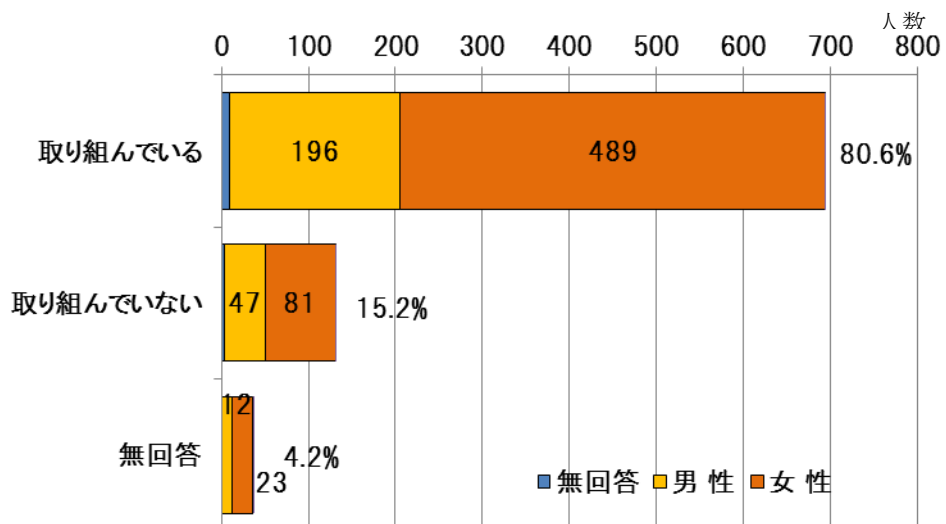
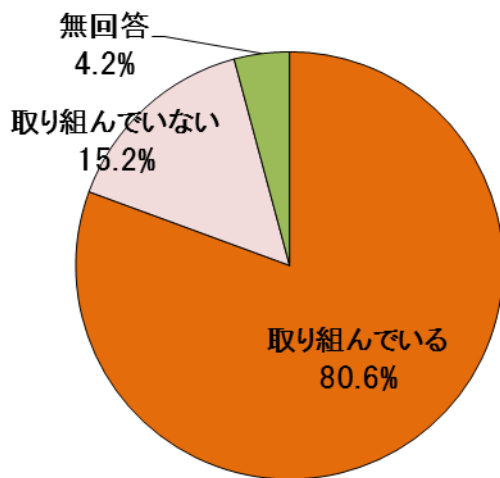


Ⅳ 生ごみの減量・リサイクルについて

◆問 11 あなたの世帯では「生ごみの水切り」に取り組んでいますか？

選択項目	回答数				構成比
	男性	女性	無回答	計	
1. 取り組んでいる	196	489	9	694	80.6%
2. 取り組んでいない	47	81	3	131	15.2%
3. 無回答	12	23	1	36	4.2%
計	255	593	13	861	100.0%

【項目別回答状況】



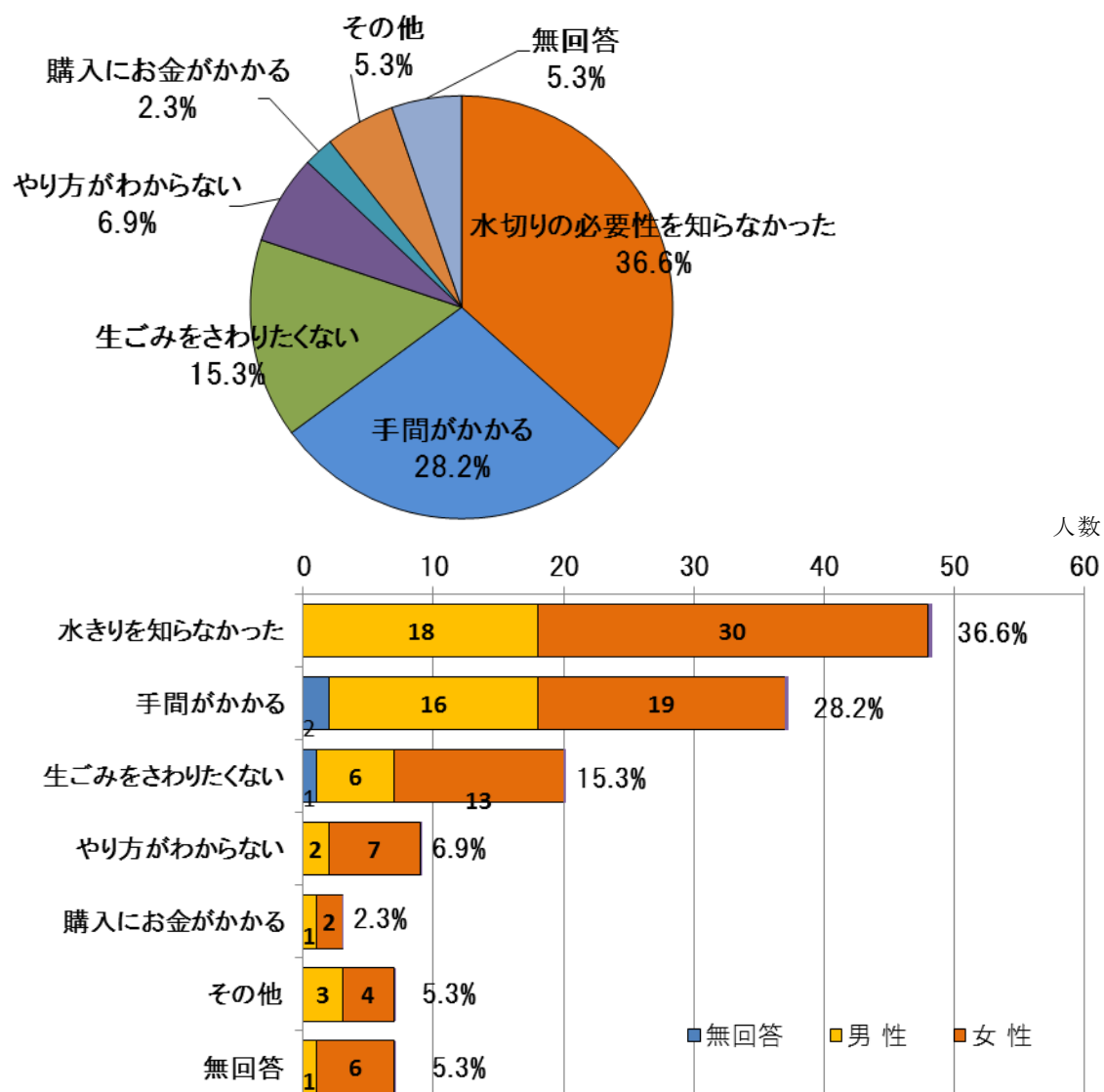
◆問 12 「生ごみの水切り」に取り組んでいない理由は何ですか？

選択項目	回答数				構成比
	男性	女性	無回答	計	
1. 水きりの必要性を知らなかった	18	30		48	36.6%
2. 手間がかかる	16	19	2	37	28.2%
3. 生ごみをさわりたくない	6	13	1	20	15.3%
4. やり方がわからない	2	7		9	6.9%
5. 三角コーナーや水切り器の購入に費用がいる	1	2		3	2.3%
6. その他	3	4		7	5.3%
7. 無回答	1	6		7	5.3%
計	47	81	3	131	100.0%

《その他》

- ・排水ネットを使用しているが、水切りまでついつい待てない。
- ・なるべく生ごみを出さないようにしているので、水切りするほど量が出ない。

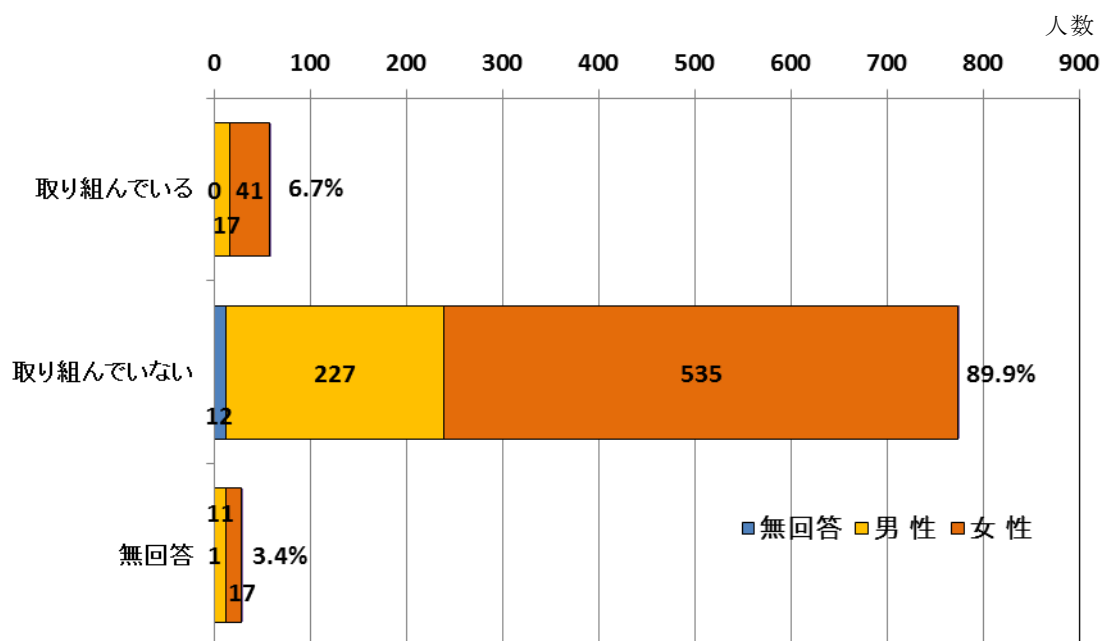
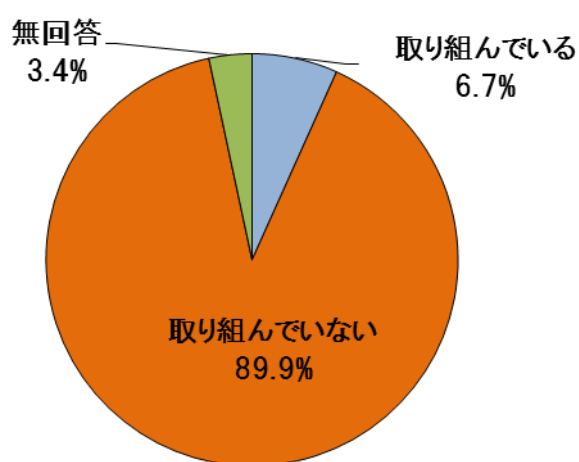
【項目別回答状況】



問 13 あなたの世帯では「生ごみ」堆肥化に取り組んでいますか？

選択項目	回答数				構成比
	男性	女性	無回答	計	
1. 取り組んでいる	17	41		58	6.7%
2. 取り組んでいない	227	535	12	774	89.9%
3. 無回答	11	17	1	29	3.4%
計	255	593	13	861	100.0%

【項目別回答状況】



◆問 14 「生ごみの堆肥化」に取り組んでいない理由は何ですか？

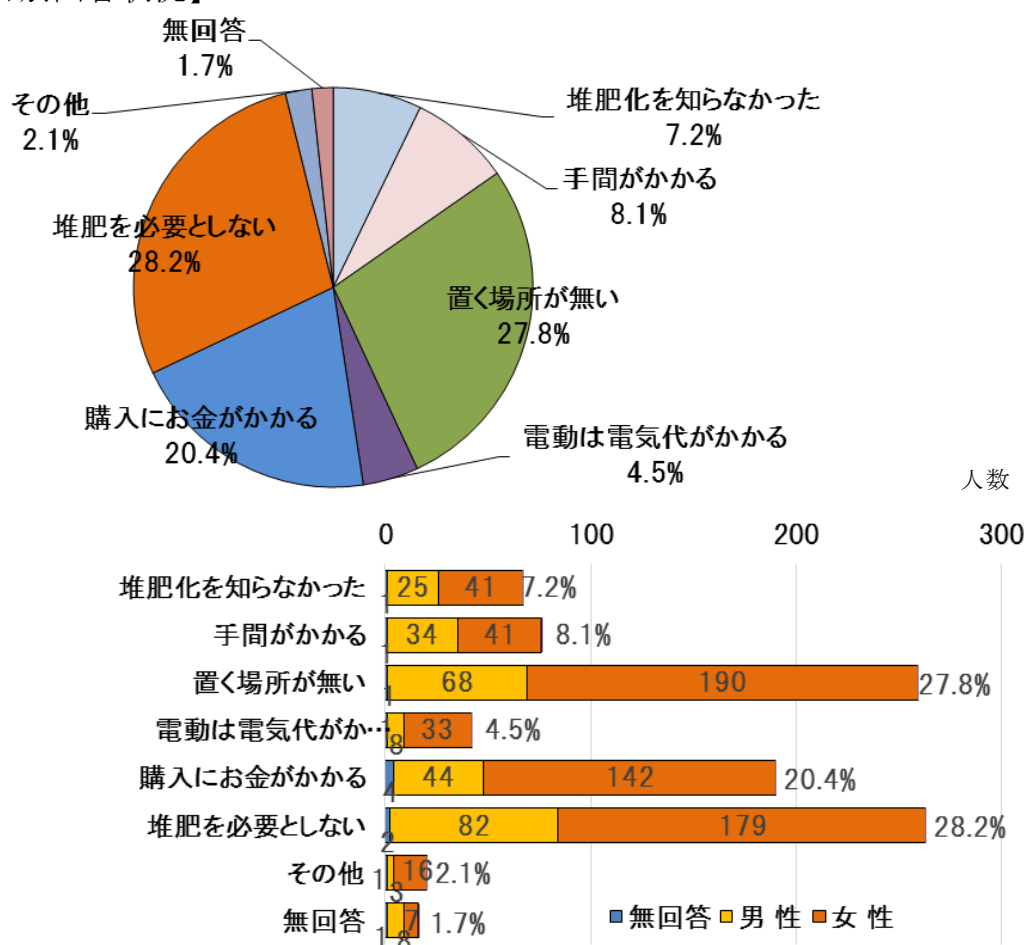
選択項目	回答数				構成比
	男性	女性	無回答	計	
1. 生ごみの堆肥化を知らなかった	25	41	1	67	7.2%
2. 手間がかかる	34	41	1	76	8.1%
3. 置く場所がない	68	190	1	259	27.8%
4. 電動式は電気代がかかる	8	33	1	42	4.5%
5. コンポストや処理機の購入に費用がいる	44	142	4	190	20.4%
6. 堆肥を必要としない	82	179	2	263	28.2%
7. その他	3	16	1	20	2.1%
8. 無回答	8	7	1	16	1.7%
計	272	649	12	933	100.0%

※設問は単一回答としていたが多数の複数回答があったため、複数回答を含んだ数値で集計しています。

《その他》

- ・マンションに住んでいるので無関心です。
- ・堆肥化出来る生ごみと出来ない生ごみの分別が大変だから。
- ・集合住宅のためダストボックスへ入れる。
- ・家族が二人であまりごみが出ない。
- ・虫が発生する気がする。

【項目別回答状況】



V 廃プラについて

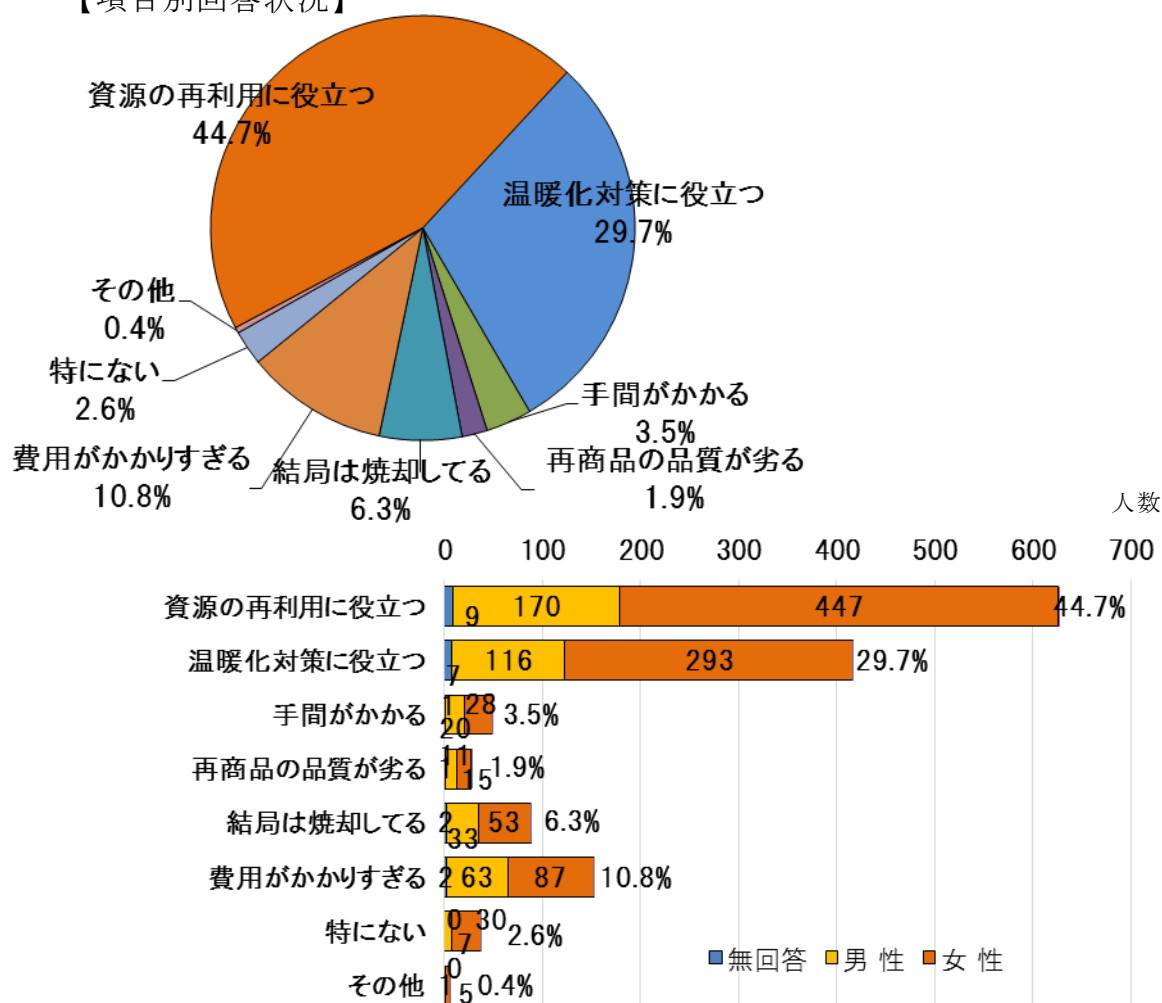
◆問 15 あなたは、廃プラ・ペットボトルの再商品化（収集した廃プラを選別し、プラスチック原料やプラスチック製品、燃料などに生まれ変わらせること）について、どう思われますか？（複数回答）

選択項目	回答数				構成比
	男性	女性	無回答	計	
1. 限りある資源の再利用に役立つ	170	447	9	626	44.7%
2. CO ₂ 排出抑制で地球温暖化対策に役立つ	116	293	7	416	29.7%
3. 分別に手間がかかる	20	28	1	49	3.5%
4. 複合素材は再利用しても商品の品質が劣る	11	15	1	27	1.9%
5. 再利用しても、結局は焼却している	33	53	2	88	6.3%
6. 処理に費用がかかりすぎている	63	87	2	152	10.8%
7. 特にない	7	30	0	37	2.6%
8. その他	0	5	1	6	0.4%
計	420	958	23	1,401	100.0%

《その他》

- ・焼却時に排出される排ガス等に問題がある
- ・処理による科学物質のアレルギーで悩まされている人がいる。
- ・本当に資源の節約になっているのか、詳しい所がわからない。

【項目別回答状況】



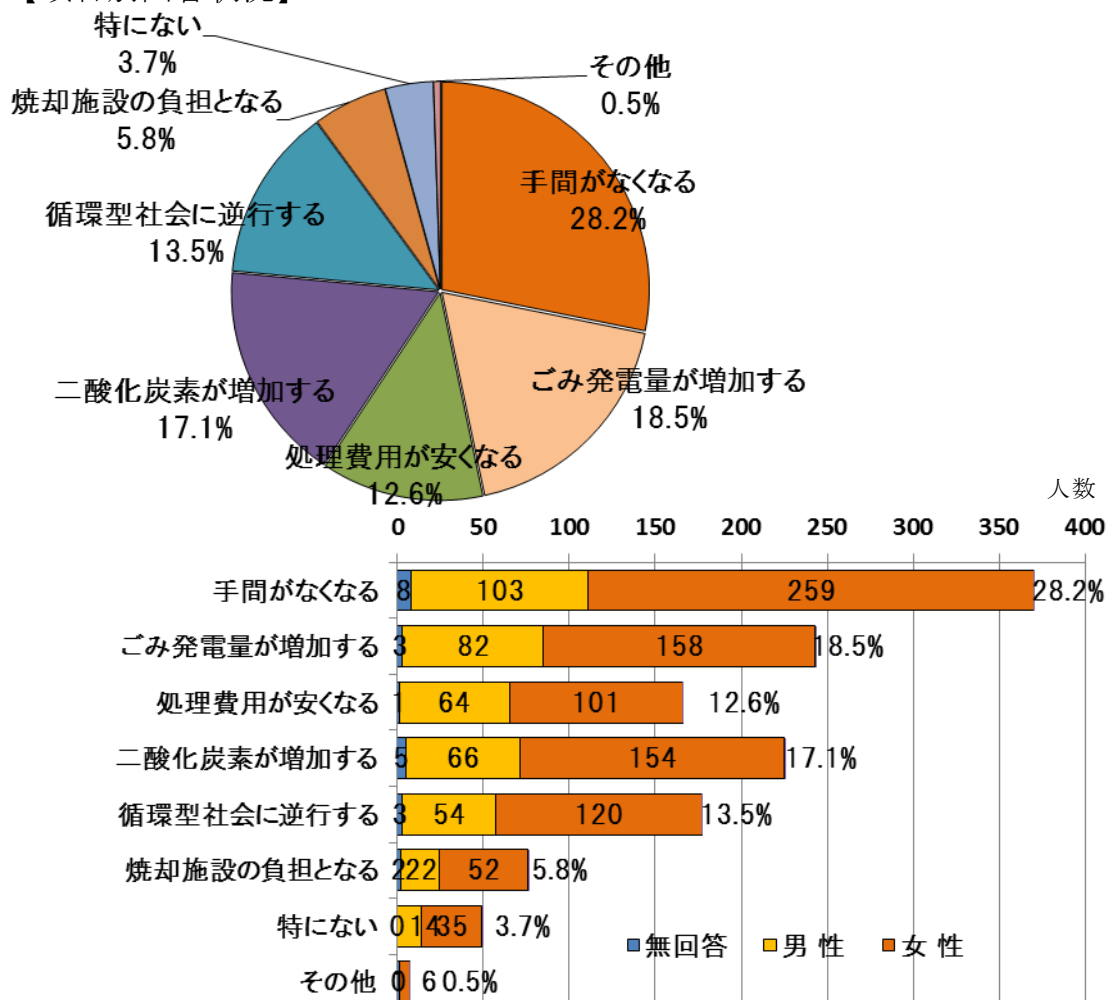
◆問 16 あなたは、廃プラ・ペットボトルの焼却時の熱利用（分別せずに可燃ごみと一緒に家庭から出された廃プラを焼却し、その熱を発電や給湯に活用すること）について、どのように思われますか？（複数回答）

選択項目	回答数				構成比
	男性	女性	無回答	計	
1. 分別する手間が無くなる	103	259	8	370	28.2%
2. ごみ発電量の増加に役立つ	82	158	3	243	18.5%
3. 処理費用が安くなる	64	101	1	166	12.6%
4. CO ₂ の排出量が増加する	66	154	5	225	17.1%
5. 循環型社会の推進に逆行する	54	120	3	177	13.5%
6. 焼却炉温度が上昇し、施設に負担をかける	22	52	2	76	5.8%
7. 特にない	14	35	0	49	3.7%
8. その他	0	6	1	7	0.5%
計	405	885	23	1,313	100.0%

《その他》

- ・ 処理費用、焼却炉、二酸化炭素の事がわからない
- ・ 廃プラを焼却し環境に問題なければするべきだと思う。
- ・ 廃プラ・ペットボトル処理時に必要となる資源より少なくなるのであればよいと思う。
- ・ 地域エネルギー化が進むのは大賛成です。

【項目別回答状況】



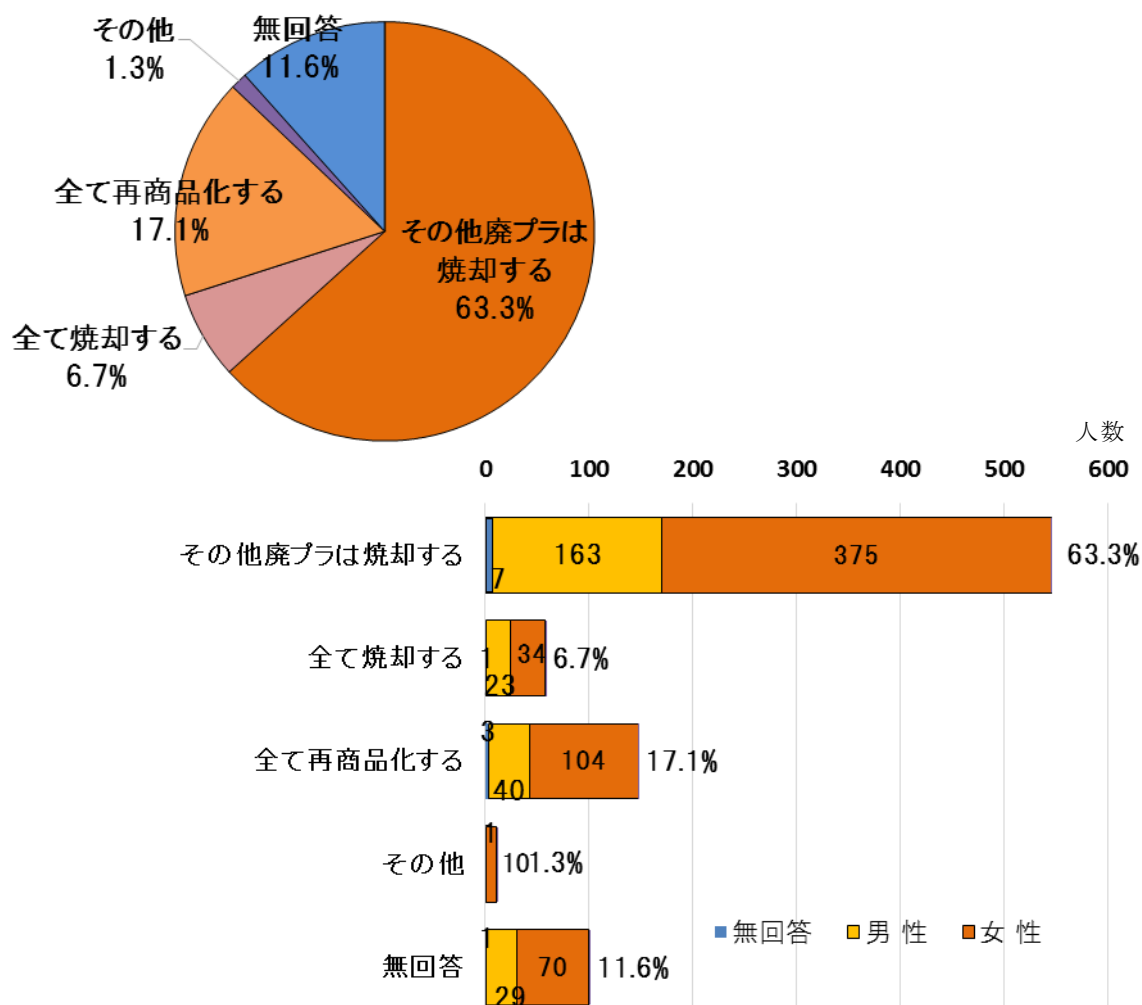
◆問 17 あなたは、廃プラ・ペットボトルの処理方法として、従来の再商品化と焼却時の熱利用についてどのように思われますか？

選択項目	回答数				構成比
	男性	女性	無回答	計	
1. 再商品化しやすいものは再商品化し、その他廃プラは焼却する	163	375	7	545	63.3%
2. 全て焼却（サーマルリサイクル）する	23	34	1	58	6.7%
3. これまでと同じように、全て再商品化する	40	104	3	147	17.1%
4. その他		10	1	11	1.3%
5. 無回答	29	70	1	100	11.6%
計	255	593	13	861	100.0%

《その他》

- ・現時点ではどちらとも言い難い
- ・一番環境に負荷が少ない方を採用してほしい。
- ・一番は環境によく、ごみあまり出ない方法であれば、両方活用していくことがよいと思います。

【項目別回答状況】



VI 自由意見

◆問 18 ごみ減量・リサイクルなどごみ処理事業についての意見等要約 計 245 人
の方から意見をいただきました。

○ごみ分別や出し方等に関する情報提供のさらなる充実（45 件）

《主な意見》

- ・ ペットボトルのラベル・フタについて、取り外さなければならないか？
- ・ 可燃ごみに紙類が多く混ざっているが、もっと啓発すれば資源になるのでは？
- ・ 汚れた廃プラの出し方をもっと啓発して欲しい。
- ・ ホームページやクリーンカレンダーにごみの分け方・出し方の項目をもっと詳細にのせてほしい。
- ・ 可燃ごみに出したほうが良い廃プラは？

○ごみ減量・リサイクルへの取組み等（36 件）

《主な意見》

- ・ ごみ減量だけでなく悪臭低減にもなる、水切りの重要性をもっと知らせてください。
- ・ 皮まで食べられる果物や野菜は、できるだけ食べてごみが出ないように心がけている。
- ・ 日常で、何か取組みを決めて、ごみ減量を行っています。
- ・ ごみができるだけ少なくなるように購入のときに気をつけている。
- ・ 買物袋を持参し、レジ袋を断っている。
- ・ 可燃ごみの水分を切ることはたやすいことなので、もっと具体的に方法を周知すればよいと思う。
- ・ 生ごみの大半が食品から出ている物だと思うので、根本である食品廃棄を減らすことの方が大切ではないか。

○資源ごみ等のごみ排出場所について（4 件）

《主な意見》

- ・ 古紙などの資源ごみは、曜日に関係なくいつでも排出できる場所があればよいと思う。
- ・ 乾電池がいつでも捨てられる「ポスト」のようなものがあれば便利。
- ・ 地域の人が利用できるコンポスト等を設置してはどうか。

○ごみ有料化に対する意見（3 件）

《主な意見》

- ・ 有料化には反対です。
- ・ ごみ袋の有料化とごみ袋に名前を書けば、ごみがきちんと分別されると思う。
- ・ 家庭ごみは有料化しても良いのでは？意識が高まると思う。

○収集回数や体制等（15 件）

《主な意見》

- ・ステーションごとにごみ収集に来る時間を知りたい。
- ・可燃ごみの収集は、できれば午前中にして欲しい。
- ・廃プラ・ペットの収集日を増やして欲しい。
- ・古紙・古着は隔週でよいので、びん缶を毎週にして欲しい。
- ・9時までに出すことになっているが、カラスに荒らされるので、午前中に収集して欲しい。
- ・生ごみの悪臭対策として、夏場だけでも週3回、可燃ごみを収集して欲しい。

○環境学習の機会の充実（7 件）

《主な意見》

- ・ごみ処理施設の見学等に気軽に行けて、ごみ処理がどのように行われているかを見れば、意識が変わると思う。
- ・小中学校で、ごみについてもっと教えればよいのでは？
- ・ごみ減量やリサイクルについて必要性を感じていない人が多いように思う。もっと解りやすく処理経費への影響などを個人が感じられるようにしてはどうか。
- ・ごみをルールどおり分別していない人もいるので、様々な機会に学べるよう工夫が必要では。

○資源ごみ等の持ち去り対策（14 件）

《主な意見》

- ・ごみ置き場から資源ごみを車で持ち去られることがある。対策は？
- ・資源ごみは持ち去られることがあるので、地域の集団回収に出すようにしている。
- ・アルミ缶等を個人で持ち去る人がいます。どうにかならないか？

○収集職員等の教育（4 件）

《主な意見》

- ・ごみ収集車のスピード、作業の荒さがあるので、職員の教育をしっかりとってください。

○事業系ごみ等に関する意見（9 件）

《主な意見》

- ・事業所から出る廃棄物の取組みができていないのでは？
- ・飲食屋が多い地域では、きちんとごみの始末をしてくれない。
- ・職場で、ごみが分別されていないので、事業所への指導も行ってください。

○その他（108 件）

- ・近所のみなでごみネットを購入しているが、すでに破れているのでもう少し丁寧に取り扱ってほしい。

◆ インターネット等による意見募集

アンケートが届かなかった方からも意見を募集し、下表のとおり 13 件を受理しました。

郵送	ファックス	メール	計
1 件	5 件	7 件	13 件

意見集約

リサイクルに適したものはリサイクルし、その他は焼却すべき	10 件
全ての廃プラを焼却すべき	3 件
廃プラ公害被害の訴え	7 件

※意見内容を集約したため受付件数と一致しない。

回答用紙

当てはまる番号に○をつけて下さい。

I お答え頂く方を教えてください



◆問1 あなたの性別

1. 男
2. 女

◆問2 あなたの年代

1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代
6. 60代 7. 70代 8. 80代 9. 90代以上

◆問3 あなたのお住まいの小学校区

1. 東小学校区 2. 中央小学校区 3. 池田小学校区 4. 桜小学校区
5. 北小学校区 6. 田井小学校区 7. 明和小学校区 8. 梅が丘小学校区
9. 神田小学校区 10. 和光小学校区 11. 第五小学校区 12. 国松緑丘小学校区
13. 南小学校区 14. 堀溝小学校区 15. 西小学校区 16. 点野小学校区
17. 成美小学校区 18. 啓明小学校区 19. 三井小学校区 20. 宇谷小学校区
21. 木屋小学校区 22. 石津小学校区 23. 木田小学校区 24. 楠根小学校区

※小学校区がわからない場合は、()にお住まいの町名と番地を記入してください。

()

II ごみ減量・リサイクルの関心や取組みについて教えてください



◆問4 あなたは、ごみの減量やリサイクルについて関心がありますか。次の中から1つ選んでください。

1. 関心がある。
2. どちらかといえば関心がある。
3. どちらかといえば関心がない。
4. 関心がない。

◆問5 問4で「3又は4」とお答えした方にお聞きします。「関心がない」理由に当てはまるもの、または、近いものを1つ選んでください。

1. ごみを減らすことによる効果を実感できないから
2. ごみを減らさなくても自分たちの生活に影響が無いから
3. ごみを減らす方法やリサイクルする方法について情報が少ないから
4. ごみを減らしたり、リサイクルするのに手間がかかるから
5. その他()

◆問6 あなたは、日ごろから心がけていることがありますか。次の中から当てはまるものをすべて選んでください。(複数回答可)

1. 使い捨て商品はなるべく買わない。
2. 詰め替え商品を選んで買っている。
3. マイバックを持参し、レジ袋や過剰包装を断っている。
4. 資源とごみは分別している。
5. 資源集団回収に出している。
6. 白色トレイや牛乳パックなどを店頭回収に出している。
7. 生ごみは「水切り」をしてから出している。
8. 生ごみは、コンポストや生ごみ処理機を使って堆肥化している。
9. 特に何もしていない。
10. その他()

◆問7 ごみの減量やリサイクルを推進するために、寝屋川市に特に必要な取り組みは何だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

1. ごみの分別についてもっと市民に周知する。
2. 多くの市民が、ごみの問題を学習できる機会を増やす。
3. ごみの減量方法やリサイクルに関する情報提供を充実させる。
4. 古紙などの資源ごみは、曜日や時間に関係なく、いつでも出せる場所を提供する。
5. 資源集団回収活動の強化やコンポスト容器などによる生ごみの堆肥化の取組を進める。
6. 古紙・古着、缶・びん、廃プラ・ペットボトルのほかにも、分別収集する資源ごみの品目を増やす。
7. 家庭ごみ収集を有料化する。
8. 特にない
9. その他()

- ◆問8 ごみの分け方・出し方について、わからないときに主に何をしていますか。当てはまるものを1つ選んでください。

1. ごみの分け方・出し方パンフレット
2. クリーンカレンダー
3. 市ホームページ
4. 市広報誌
5. 市(クリーンセンター)に電話で聞く。
6. その他 ()

- ◆問9 可燃ごみの中には、古紙などの資源ごみや不燃ごみが多く含まれています。
あなたが、可燃ごみに間違って入れていたものは何ですか？次の中から当てはまるものを選んでください。(複数回答可)

可燃ごみに間違っ	て入れていたごみ	正 解
1. お菓子やボックスティッシュなどの紙箱		古紙・古着
2. 包装紙・折込み広告・段ボールなどの紙類		古紙・古着
3. 古着(下着や靴下、タオルなどは可燃ごみ)		古紙・古着
4. おもちゃ(ぬいぐるみは可燃ごみ)		不燃ごみ
5. 小さな家電製品		不燃ごみ
6. プラスチック製品(ハンガーなど)		不燃ごみ
7. レジ袋		廃プラ・ペット
8. 食品トレイ(魚や肉などを入れた容器)		廃プラ・ペット
9. カップ麺などの容器		廃プラ・ペット
10. 発泡スチロール		廃プラ・ペット
11. ペットボトル		廃プラ・ペット
12. 小さな調味料のびん		缶・びん
13. アルミ箔(アルミホイル、アルミカップ等)		不燃ごみ
14. 乾電池		不燃ごみ
(他のごみと分けて別の袋に入れてください)		
15. ボタン電池		市では収集できません (家電販売店等の回収ボックスへ)
16. プランターで使った土など		市では収集できません (ホームセンター等で相談してください)
17. 間違っ	て入れている物はない	

Ⅲ 現在の収集体制はどうですか？



- ◆問10 あなたは現在の収集回数についてどのように思いますか？それぞれ当てはまるものを1つ選んでください。(【 】内は現在の収集回数で合計週5日(月～金曜日))

- 可燃ごみ 【週2回】 (1. 増やして欲しい 2. 現状のままでよい 3. 減らして欲しい)
- 古紙・古着 【週1回】 (1. 増やして欲しい 2. 現状のままでよい 3. 減らして欲しい)
- 廃プラ・ペットボトル【週1回】(1. 増やして欲しい 2. 現状のままでよい 3. 減らして欲しい)
- 缶・びん【第2・4水曜】 (1. 増やして欲しい 2. 現状のままでよい 3. 減らして欲しい)
- 不燃ごみ【第1・3・5水曜】 (1. 増やして欲しい 2. 現状のままでよい 3. 減らして欲しい)

Ⅳ 生ごみの減量・リサイクルについて教えてください



可燃ごみの約40%は「生ごみ」です。「生ごみ」の約70%は水分です。
ごみの量は重さで計りますので、ごみとして出す前に、「生ごみ」の水を絞る「水切り」をすることで、悪臭の低減やごみの減量とともに焼却炉で燃やしやすくなります。
そこでお聞きます。

- ◆問11 あなたの世帯では「生ごみ」の水切りに取り組んでいますか。当てはまるものを1つ選んでください。

1. 現在取り組んでいる。
2. 取り組んでいない。

- ◆問12 問11で「2. 取り組んでいない」とお答えした方にお聞きます。水切りに取り組んでいない理由で当てはまるものを選んでください。

1. 水切りの必要性を知らなかった。
2. 手間がかかる。
3. 生ごみをさわりたくない。
4. やり方がわからない。
5. 三角コーナーや水切り器の購入にお金がかかる。
6. その他 ()

生ごみをごみとして出さず、コンポストや生ごみ処理機等を使って、「生ごみ」を堆肥化すれば、家庭から出る「生ごみ」を減らせるのはもちろん、作った堆肥を畑や庭、プランター等で活かします。
そこでお聞きます。

コンポストとは…生ごみを土中の微生物により発酵させ堆肥化する容器
生ごみ処理機とは…生ごみを減量するためヒーター等で乾燥させるものや
微生物の働きを助けるよう乾燥や攪拌して分解する家電製品

◆問13 あなたの世帯では「生ごみ」堆肥化に取り組んでいますか。当てはまるものを1つ選んでください。

1. 現在取り組んでいる。
2. 取り組んでいない。

◆問14 問13で「2. 取り組んでいない」とお答えした方にお聞きます。堆肥化に取り組んでいない理由で当てはまるものを1つ選んでください。

1. 生ごみの堆肥化を知らなかった。
2. 手間がかかる。
3. 置く場所が無い。
4. 電動式は電気代がかかる。
5. コンポストや生ごみ処理機の購入にお金がかかる。
6. 堆肥を必要としない。または、堆肥を全て使うところがない。
7. その他()

V 廃プラについて教えてください



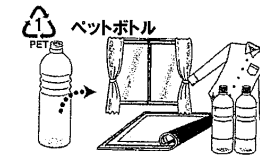
寝屋川市では、平成20年2月から枚方市・四條畷市・交野市と共同して廃プラ・ペットボトルの再商品化リサイクルを進める中間処理を行っています。

図のとおり、廃プラ・ペットボトルのリサイクルについては、再商品化と焼却時の熱利用に大別され、手法についてはそれぞれ特徴があります。(同封の参考資料もご覧ください)

また、寝屋川市では平成30年度から新たな焼却施設が稼働することから、今までの再商品化だけでなく、焼却時の熱を利用したごみ発電に活用することも考えております。

そこで、問15～問17についてお聞きます。

再商品化(材料リサイクル・ケミカルリサイクル)とは？



単一素材のペットボトル等は、
シャツやカーペットなどに再生されたり、
新しいペットボトルに生まれ変わります。



複合素材の廃プラは、
建材、植木鉢、ハンガーなどに再生されたり、
化学的に分解し、高炉原料などにされます。

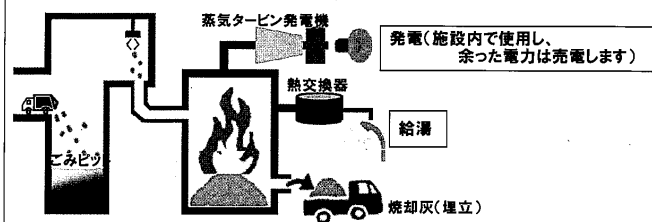
【特徴】

- ・石油など限りある資源の消費や枯渇の抑制に寄与できる。
- ・廃プラを焼却しないことにより、CO₂排出量を抑制できる。(試算 約11,300 t-CO₂/年削減)
- ・焼却ごみ量が減り、焼却残渣量を抑制できる。(H26年度再商品化量 約4,000 t(焼却削減))

◆問15 あなたは、廃プラ・ペットボトルの再商品化(収集した廃プラを選別し、プラスチック原料やプラスチック製品、燃料などに生まれ変わらせること)についてどう思いますか。次の中から当てはまるものを2つまで選んでください。

1. 限りある資源の再利用に役立っている。
2. 二酸化炭素の排出抑制ができ地球温暖化対策に役立っている。
3. 分別するのに手間がかかる。
4. 複合素材は、再利用しても、その商品の品質が劣る。
5. 再利用しても、結局は焼却している。
6. 処理に費用がかかりすぎている。
7. 特にない
8. その他()

焼却時の熱利用(サーマルリサイクル)とは？



【特徴】

- ・分別する手間がなくなる。
 - ・発電により売電収入が増加する。(試算 約2,000万円/年増加)
 - ・売電により間接的にCO₂削減に寄与できる。
- (試算 焼却での排出と発電による削減との差引 約4,300 t-CO₂/年削減)

◆問16 あなたは、廃プラ・ペットボトルの**焼却時の熱利用**(分別せずに可燃ごみと一緒に家庭から出された廃プラを焼却し、その熱を発電や給湯に活用すること)についてどう思われますか。次の中から当てはまるものを2つまで選んでください。

1. 可燃ごみと廃プラを分別する手間が無くなる。
2. 燃えやすい廃プラを燃やすことによって、ごみ発電量の増加に役立つ。
3. 処理費用が安くなる。(廃プラの再商品化には収集・選別・再商品化の経費が必要)
4. 廃プラを燃やすことにより、二酸化炭素の排出量が増加する。
5. 資源を再利用すべきという、循環型社会の推進に逆行している。
6. 燃えやすい廃プラを焼却することで、焼却炉の温度が上昇し、焼却施設に負担をかける。
7. 特にない
8. その他 ()

◆問17 あなたは廃プラ・ペットボトルの処理方法として、従来の**再商品化と焼却時の熱利用**についてどのように思われますか？次の中から1つ選んでください。

1. 再商品化しやすいもの(単一素材でできているペットボトル等)は、再商品化して、その他廃プラは、焼却(サーマル)する。
2. 全て焼却(サーマル)する。
3. これまでと同じように、全て再商品化する。
4. その他 ()

VI 自由意見



◆問18 ごみの減量・リサイクルなどごみ処理事業についてご意見等がありましたら下欄にご記入ください。

アンケートは、以上です。ご協力ありがとうございました。

回答用紙(ピンク色4枚)を封筒に入れて投函してくださいね

